

合い言葉は「ドキドキ」

池野田 孝 | Ikenoda, Koichi

(第45回広島大学学祭実行委員会委員長)

第四十五回広島大学学祭を十一月二日(土)、三日(日)、四日(月)の三日間開催することになりました。今年の学祭では、スペイン広場に特設ステージを設置し、学祭実行委員会主催の企画や広島大学内の企画団体による企画などを行います。また、総合科学部K棟内では展示などのさまざまな企画や、講義棟前広場での模擬店や、保健管理センター横の広場に企画スペースを設けてのストリートバンドなども予定されています。

さて、今回の学祭のテーマというところ、それは「鼓動〜ドキドキ」であります。「鼓動」と書いて「ドキドキ」と読みます。なぜそのようなテーマにしたかというところ、普段の生活の中で見失いがちな胸の高鳴りを感じられるような学祭にしていきたい、という願いや意気込みからです。

また、広島大学の一人を超える学生のより多くの参加を目指すことで学祭を活性化させ、広島大学にさらなる活力を生み出していかう、学祭を学生と市民の交流の場とし、お互いが刺激し合うことで、東広島全体の盛り

上がりへと発展させていきたいとも考えています。

「鼓動〜ドキドキ」という言葉の中には学祭を通じて起こるさまざまな期待が集約されているのです。

ところで、学祭における見所といえますと、やはり今学祭のメインイベント、「不死鳥杯争奪第一回学部対抗『知力・体力』王座決定戦」であります。

この企画は、「めざせ全学祭」をコンセプトに、各学部対抗でクイズ対決やアームレスリング、綱引き、超極秘のラスト企画など、多種多様な競技で競い合い、広島大学No1学部を決定していくという企画です。「めざせ全学祭」のコンセプトを打ち立てた背景には、私たち学祭実行委員会にとって、昨年までの学祭が必ずしも全国屈指の規模、学生数を誇る広島大学に見合ったものであったとは感じられなかった事情があります。「全学祭」とは、まさしく広島大学全学生の祭を意味し、この企画において、「第一回」と銘打っているのは、「第二回」、「第三回」と続けていくことで、全学部参加企画を定着

させていき、学祭への参加の場を設けることで、私たちの目指す「全学祭」を実現していきたい、という意思の現れです。

「知力・体力」王座決定戦のほか、学祭実行委員会の主催する企画としては、十一月三日(日)のステージで「カラオケ紅白歌合戦」、同じく三日に保健管理センター隣の駐輪場で行われる「マツダモーターショー」、十一月四日(月)に総合科学部講義棟K10七号教室で学祭実行委員会と広島エフエムの共催で行われる「広島エフエム公開放送」などがあります。

また、広島大学内のサークルや企画団体の実施する企画としては、ステージではフアッシュョンショーや、リズムミックダンス、バンド演奏etc.;、総合科学部講義棟を中心に行われる、講演会や作品展示、お化け屋敷、屋外では、フリーマーケットやエイズ写真展など、多種多様な企画が予定されています。

学祭と平行して開催されるものとしては、十一月二日(土)に行われる、広島大学体育会主催の「THE OYSTARS (ジ・オイスターズ)」コンサートや十

一月三日(日)、四日(月)に行われる「東洋紡バレーボール教室」、「第一回浅野杯バレーボール大会」、さらに十一月二日(土)、三日(日)、四日(月)に行われる「学祭」、十一月三日(日)に行われる総合科学部公開講座など見どころたくさんイベントもあり、そちらの方にも足を運んでみてはいかがでしょう。

というわけで、今年の学祭には、「ドキドキ」の要素を含んだ企画が盛りだくさん。

ステージで「ドキドキ」、模擬店で「ドキドキ」。「ドキドキ」、「ドキドキ」。これが第四十五回広島大学学祭の合い言葉です。

学祭に限らず、「祭」というものは非日常空間の創造であると考えられます。広島大学はオリエンテーションキャンプのほかに、全学的に学生が参加する行事が皆無と言ってよく、私たちは学祭実行委員会はこの状況を改善すべくこの学祭に向けて取り組んできました。日常の広島大学と違う広島大学を見つめて、自分自身をさらに高めよう。